

2019年3月期 第1四半期決算短信(IFRS) (連結)

2018年8月10日

上場会社名 株式会社リクルートホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 6098 URL <https://recruit-holdings.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 峰岸 真澄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼専務執行役員兼CFO (氏名) 佐川 恵一 (TEL) 03(6835)1111
 四半期報告書提出予定日 2018年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (当第1四半期決算短信提出後、速やかに動画にて配信予定)
 決算資料及び説明会動画等の掲載先 : <https://recruit-holdings.co.jp/ir/>

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第1四半期の連結業績 (2018年4月1日～2018年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	567,277	8.2	67,839	20.4	67,731	14.6	47,592	17.6	47,363	17.8	57,547	16.1
2018年3月期第1四半期	524,396	19.6	56,326	12.6	59,115	15.6	40,460	15.8	40,219	15.6	49,565	—

	EBITDA		配当算定基準とする 四半期利益		調整後EPS		基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	百万円	%	百万円	%	円 銭	%	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	78,727	9.5	45,011	14.7	29.37	15.9	28.35	28.29
2018年3月期第1四半期	71,881	13.9	39,251	8.4	25.34	11.3	24.08	24.03

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2019年3月期第1四半期	1,588,127	879,473	874,104	55.0
2018年3月期	1,574,032	840,660	835,605	53.1

2. 配当の状況及び予想

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	11.00	—	12.00	23.00
2019年3月期	—				
2019年3月期 (予想)		13.50	—	13.50	27.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想 (2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,302,000	5.9	210,000	9.5	153,000	0.9	91.59

	EBITDA		配当算定基準とする 当期利益		調整後EPS	
	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
通期	285,000	10.3	153,000	16.1	101.76	17.3

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 – 社 (社名) 、 除外 3 社 (社名) Travel Book Philippines, Inc.
PT. Go Online Destinations
Mytour Vietnam company limited

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2019年3月期1Q	1,695,960,030株	2018年3月期	1,695,960,030株
2019年3月期1Q	25,221,170株	2018年3月期	25,412,567株
2019年3月期1Q	1,670,834,188株	2018年3月期1Q	1,670,368,679株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

(4) 各種経営指標の算式

・EBITDA : 営業利益 + 減価償却費及び償却費 ± その他の営業収益・費用

・配当算定基準とする当期利益 : 親会社の所有者に帰属する当期利益 ± 非経常的な損益等

・調整後当期利益 : 親会社の所有者に帰属する当期利益 ± 調整項目 (注) (非支配持分帰属分を除く) ± 調整項目の一部に係る税相当額

・調整後EPS : 調整後当期利益 / (期末発行済株式総数 - 期末自己株式数)

(注) 企業結合に伴い生じた無形資産の償却額 ± 非経常的な損益

※ 四半期においては、「当期」を「四半期」、「期末」を「四半期末」に読み替えて計算

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・上記の通期連結業績予想には、本資料の発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれています。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束するものではありません。当該予想と実際の業績の間には、経済状況の変化、クライアントのニーズ及びユーザーの嗜好の変化、他社との競合、法規制の変更、為替変動等、今後の様々な要因によって大きく差異が発生する可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (2) 連結業績予想に関する定性的情報」を参照ください。

・当社は、2017年7月1日付で普通株式1株につき3株の株式分割を行っています。「1. 2019年3月期第1四半期の連結業績 (1) 連結経営成績 (累計)」では、前期首に当該株式分割が行われたと仮定して、基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益を算定しています。「※注記事項 (3) 発行済株式数 (普通株式)」についても、前期首に当該株式分割が行われたと仮定し、発行済株式数 (普通株式) を算定しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績等の分析	3
i 連結経営成績の概況	3
ii セグメント業績の概況	5
① HRテクノロジー事業	5
② メディア&ソリューション事業	6
③ 人材派遣事業	9
iii 資本の財源及び資金の流動性	10
(2) 連結業績予想に関する定性的情報	12
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記	13
(1) 要約四半期連結財政状態計算書	13
(2) 要約四半期連結損益計算書	15
(3) 要約四半期連結包括利益計算書	16
(4) 要約四半期連結持分変動計算書	17
(5) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	19
(6) 継続企業の前提に関する注記	20
(7) 要約四半期連結財務諸表注記	20

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(会計期間の表記に関して)

当社は連結会計年度を毎年4月1日から翌年3月31日までの1年と定めています。

本書においては、会計期間の省略表記を以下のように定義し、記載しています。

対象期間	本書内での記載方法
当第1四半期連結累計期間 当第1四半期連結会計期間	当第1四半期
当連結会計年度	当年度
前第1四半期連結累計期間 前第1四半期連結会計期間	前第1四半期、又は前年同期
前連結会計年度	前年度

また上記以外の期間における表記についても、上記の記法を用いて適宜省略し記載しています。

(1) 経営成績等の分析

 i 連結経営成績の概況
 (当第1四半期)

	(単位：十億円)			
	前第1四半期	当第1四半期	増減	増減率 (%)
連結経営成績				
売上収益(注1)	524.3	567.2	42.8	8.2
HRテクノロジー	46.4	71.1	24.6	53.0
メディア&ソリューション	165.2	173.5	8.3	5.0
人材派遣	318.0	329.1	11.0	3.5
営業利益	56.3	67.8	11.5	20.4
税引前四半期利益	59.1	67.7	8.6	14.6
四半期利益	40.4	47.5	7.1	17.6
親会社の所有者に帰属する四半期利益	40.2	47.3	7.1	17.8
経営指標				
EBITDA(注1、2)	71.8	78.7	6.8	9.5
HRテクノロジー	7.7	9.4	1.6	21.6
メディア&ソリューション	43.1	47.3	4.2	9.8
人材派遣	20.6	24.0	3.4	16.7
調整後EPS(単位：円)(注3)	25.34	29.37	4.04	15.9
期中平均為替レート(単位：円)				
米ドル	111.09	109.10	△1.99	△1.8
ユーロ	122.26	130.03	7.77	6.4
豪ドル	83.43	82.59	△0.84	△1.0
売上収益に対する為替影響額(注7、8)				
連結	-	3.5	-	-
人材派遣：海外	-	4.6	-	-

(注1) 「全社/消去」調整後の数値を記載しているため、各セグメントの金額合計と一致していません。

(注2) EBITDA：営業利益+減価償却費及び償却費±その他の営業収益・費用

(注3) 調整後EPS：調整後当期利益(注4) / (期末発行済株式総数-期末自己株式数)

(注4) 調整後当期利益：親会社の所有者に帰属する当期利益±調整項目(注5) (非支配持分帰属分を除く)
±調整項目の一部に係る税金相当額

(注5) 調整項目：企業結合に伴い生じた無形資産の償却額±非経常的な損益

(注6) 四半期においては、「当期」を「四半期」、「期末」を「四半期末」に読み替えて計算

(注7) 当第1四半期については、外貨売上収益×(当期採用平均為替レート-前期採用平均為替レート)

(注8) HRテクノロジー事業については、月次の平均為替レートを適用

(連結経営成績の概況)

当第1四半期における売上収益は5,672億円(前年同期比8.2%増)となりました。これは、HRテクノロジー事業、メディア&ソリューション事業及び人材派遣事業が全て増収となり、特にHRテクノロジー事業の成長が寄与したことによるものです。なお、売上収益に対する為替影響額は35億円のプラス寄与となりました。

当第1四半期における営業利益は678億円(前年同期比20.4%増)となりました。これは主に、各事業セグメントでの増収に伴う増益に加えて、メディア&ソリューション事業のその他の海外販促分野に属する子会社の譲渡により、子会社株式売却益を63億円計上したことによるものです。

当第1四半期における税引前四半期利益は677億円(前年同期比14.6%増)となりました。

当第1四半期における四半期利益は475億円(前年同期比17.6%増)、親会社の所有者に帰属する四半期利益は473億円(前年同期比17.8%増)となりました。

当第1四半期におけるEBITDAは787億円(前年同期比9.5%増)となりました。これは主に、HRテクノロジー事業、メディア&ソリューション事業及び人材派遣事業が全て増益となったことによるものです。

当第1四半期における調整後EPSは29.37円(前年同期比15.9%増)、配当算定基準とする四半期利益(注)は450億円(前年同期比14.7%増)となりました。

なお、調整後EPS及び配当算定基準とする四半期利益は、より経常的な収益力を表すことを目的に、当第1四半期より調整項目の内容を一部変更しています。従来は、持分法適用会社である51job, Inc.が発行している転換社債に係る損益について、一部のみを非経常項目としていましたが、これまで非経常項目としていなかった項目についても発生の源泉が同一の転換社債であること及び今後重要性が増す見込みであることを考慮し、非経常項目として調整することとしました。前年同期も同様の調整を加味して算出した場合、当第1四半期の調整後EPSの増減率は15.5%増となりました。

(注) 親会社の所有者に帰属する四半期利益±非経常的な損益等

(当第1四半期における経営施策)

・Glassdoor, Inc.の株式取得(子会社化)

当社は、企業レビュー数等で世界最大級の規模と成長性を誇る求人サイトを運営する米国未上場企業Glassdoor, Inc.(以下、「Glassdoor」という。)の発行済全株式を、当社が設立する買収目的の子会社を通じて取得することを決定し、最終契約書を2018年5月9日に締結した後、2018年6月21日付で1,430億円を支払い、株式取得を完了しました。

当社は中期的に、米国及びグローバル市場においてIndeedの既存事業の拡大とM&Aを通じてHRテクノロジー事業を積極的に拡大する戦略を掲げています。この成長戦略に沿って、企業レビュー情報等の膨大なデータベースを公開し求人企業の透明性を高めてきたGlassdoorとオンライン求人情報専門検索サイトとして高い知名度を有するIndeedが協働することで、求職者と求人企業が各々直面している様々な問題を解決し、更なる成長を実現する事業機会を創出したいと考えています。当社は、オンライン求人検索、オンライン求人情報アグリゲーション、求職者と求人企業のマッチング、そして求職者による求人企業の口コミ情報によって、求職者の仕事探しと企業の求人活動を更に強力にサポートし、オンラインHR領域におけるポジションを確固たるものにしていきます。

本件の詳細については以下をご参照ください。

：2018年5月9日付「Glassdoor, Inc.の株式取得(子会社化)に関するお知らせ」

https://recruit-holdings.co.jp/ir/ir_news/20180509_18389.html

：2018年6月21日付「Glassdoor, Inc.の株式取得(子会社化)完了に関するお知らせ」

https://recruit-holdings.co.jp/ir/ir_news/20180621_18428.html

ii セグメント業績の概況

① HRテクノロジー事業

(業績の概況)

当報告セグメントはオンライン求人情報専門検索サイト「Indeed」と、これに関連する事業で構成されています。なお、2018年6月21日に子会社化が完了したGlassdoorの業績は第2四半期以降、当報告セグメントの業績に寄与します。

当第1四半期における売上収益は711億円（前年同期比53.0%増）となりました。これは主に、好調な経済環境及び雇用市場を背景に、新規クライアントの獲得及び既存クライアントによる「Indeed」のサービス利用が拡大したことによるものです。米ドルベース売上（注）は前年同期比56.0%の増加となりました。

当第1四半期のセグメント利益（セグメントEBITDA）は94億円（前年同期比21.6%増）となりました。これは主に、売上収益の拡大によるものです。また、売上成長を促進するため、新規ユーザー・クライアントの獲得のための営業体制の拡充及びマーケティング活動の展開並びにユーザー・クライアント双方へのサービス拡充を図るプロダクトの強化等に対して機動的に投資を行っています。なお、Glassdoorの子会社化に関する取得関連費用11.9億円が一時的にセグメント利益を押し下げました。

当報告セグメントの業績及び関連データ等は以下のとおりです。

	(単位：十億円)			
	前第1四半期	当第1四半期	増減	増減率 (%)
売上収益	46.4	71.1	24.6	53.0
セグメント利益（セグメントEBITDA）	7.7	9.4	1.6	21.6
参考：米ドルベース売上（注） （単位：百万米ドル）	418	652	234	56.0

（注）当報告セグメントの現地決算数値であり、IFRSに基づく当社連結決算数値に含まれる数値とは異なります。

② メディア&ソリューション事業

(業績の概況)

当報告セグメントは、クライアントの集客やさまざまな業務支援を行う販促領域と、クライアントの人材採用の支援を行う人材領域の2つの事業領域で構成されています。

当第1四半期における売上収益は1,735億円（前年同期比5.0%増）となりました。これは主に、販促領域が美容分野を中心に増収となったこと及び人材領域が増収となったことによるものです。

当第1四半期におけるセグメント利益（セグメントEBITDA）は473億円（前年同期比9.8%増）となりました。これは主に、売上収益の拡大による各領域におけるセグメント利益の増益によるものです。また、当年度から新たな経営体制に移行したことに伴い、連結グループ内取引に関する費用、具体的には経営指導料や管理機能に係る業務委託費の配賦方針に変更があり、この結果セグメント利益を押し上げました。この影響を控除した際の前年同期比はセグメント利益6.0%増となり、販促領域は9.3%増、人材領域は10.4%増（注）となりました。

(注) 影響額は管理会計上の数値を用いて算出

当報告セグメントの業績及び関連データ等は以下のとおりです。

	前第1四半期	当第1四半期	増減	増減率 (%)
	(単位：十億円)			
売上収益（合計）	165.2	173.5	8.3	5.0
販促領域	91.7	93.6	1.9	2.1
住宅分野	24.6	24.2	△0.4	△1.7
結婚分野	13.8	13.9	0.0	0.3
旅行分野	13.6	14.0	0.3	2.8
飲食分野	8.8	9.2	0.4	4.6
美容分野	15.0	17.2	2.1	14.2
その他	15.6	15.0	△0.6	△4.1
人材領域	71.2	79.0	7.7	10.9
国内人材募集分野	66.3	70.2	3.9	6.0
その他	4.9	8.8	3.8	76.9
全社／消去（メディア&ソリューション事業）	2.1	0.8	△1.3	△62.6
セグメント利益（セグメントEBITDA）（合計）	43.1	47.3	4.2	9.8
販促領域	24.7	27.9	3.2	13.1
人材領域	20.7	23.3	2.5	12.4
全社／消去（メディア&ソリューション事業）	△2.3	△3.9	△1.6	—

	(単位)	2018年 3月期				2019年 3月期
		1Q末	2Q末	3Q末	4Q末	1Q末
事業データ						
「HotPepperグルメ」 ネット予約人数累計 (注1)	万人	1,448	2,828	5,275	7,121	1,905
「HotPepper Beauty」 ネット予約件数累計 (注1)	万件	1,824	3,795	5,758	7,823	2,272
「Airレジ」登録アカウント数	万	29.2	30.5	31.8	33.3	34.9
「スタディサプリ」有料会員数 (注2)	万人	40.4	44.4	45.4	47.6	55.9
市場環境指標						
新設住宅着工戸数 (注3)	戸	249,916	246,924	244,511	205,045	245,040
有効求人倍率 (注4、5)	倍	1.49	1.52	1.57	1.59	1.60

(注1) キャンセル前予約受付ベース、各連結会計年度期首からの累計数値

(注2) 従来は「スタディサプリ」有料会員数のうち、高校生向けサービスのみを開示していましたが、2019年3月期より、「スタディサプリ」の有料会員数の合計を新たに開示します。なお、有料会員数とは、小学生、中学生並びに高校生向け講座及び「スタディサプリ English」の有料会員数の合算値です。これに伴い、同会員数の2018年3月期の数値もあわせて遡及開示します。

(注3) 出所：国土交通省「住宅着工統計」

(注4) 出所：厚生労働省

(注5) 各四半期の各月末の平均値

(各事業分野の概況)

・販促領域

住宅分野：

首都圏を中心としたマンション平均価格の高止まりが続くなか、分譲マンションの住宅着工件数は減少傾向にあります。このような環境の下、当第1四半期においては、ユーザー集客の推進に加えてクライアントへのソリューション提供の強化に注力したことで、戸建・流通分野及び賃貸分野が伸長しました。一方で前第3四半期に当分野に属する子会社を譲渡したことが、売上収益の減少要因となりました。

この結果、当第1四半期における売上収益は242億円（前年同期比1.7%減）となりました。なお、子会社譲渡による影響を控除した際の売上収益の前年同期比は5.5%増（注）となりました。

結婚分野：

少子化の影響で国内の婚姻組数は減少傾向にあるなかで、大手結婚式場運営クライアントの高い集客ニーズを取り込むことに注力しました。

この結果、当第1四半期における売上収益は139億円（前年同期比0.3%増）となりました。

旅行分野：

当社グループのサービスにおける延べ宿泊者数及び宿泊単価が増加したことで、売上収益が増加しました。

この結果、当第1四半期における売上収益は140億円（前年同期比2.8%増）となりました。

飲食分野：

人手不足等を受けて、飲食店を取り巻く経営環境に引き続き厳しさがみられるなか、当社グループは「Airシリーズ」を軸にデータ分析を活用した提案型営業等、クライアントの業務支援に積極的に取り組み、クライアント接点の強化に注力したことで、クライアントからの広告出稿が徐々に回復しました。

当第1四半期における売上収益は92億円（前年同期比4.6%増）となりました。

美容分野：

「SALON BOARD」のクライアントへの導入や、同サービスの利便性の向上を進めたことで、当社グループのサービスを通じたネット予約件数が順調に増加しました。また、引き続き地方圏及び都市圏郊外でのクライアント獲得が順調に進展し、取引店舗数が拡大しました。

この結果、当第1四半期における売上収益は172億円（前年同期比14.2%増）となりました。

その他（販促領域）：

当分野は自動車分野、進学及び学び等の教育関連分野並びに海外販促分野のほか、「Airシリーズ」の事業収益等により構成されています。

当第1四半期における売上収益は150億円（前年同期比4.1%減）となりました。これは主に、海外販促分野の子会社譲渡の影響により売上収益が減少したことによるものです。なお、子会社譲渡による影響を控除した際の売上収益の前年同期比は5.6%増（注）となりました。

（注）前年実績から、譲渡した子会社の前年実績の数値を除いて算出

・人材領域

国内人材募集分野：

有効求人倍率が継続的に上昇し、求人広告掲載件数が高水準で推移する等、国内の労働市場は逼迫した情勢が継続しています。このような環境の下、引き続きブランド力の向上やユーザー集客及び営業体制の強化等を行った結果、主に正社員募集分野の中途採用における業績が拡大しました。

この結果、当第1四半期における売上収益は702億円（前年同期比6.0%増）となりました。

その他（人材領域）：

当分野は国内における人材育成サービス関連分野や、アジアでの人材紹介分野等により構成されています。当第1四半期より、従来は国内人材募集分野に含まれていた一部事業を、当分野に移管したことにより、同事業に係る売上収益が増加しました。

この結果、当第1四半期における売上収益は88億円（前年同期比76.9%増）となりました。

③ 人材派遣事業

(業績の概況)

当報告セグメントは、国内派遣及び海外派遣の2つの事業領域で構成されています。

当第1四半期における売上収益は3,291億円（前年同期比3.5%増）となりました。これは主に、国内派遣領域において、人手不足が継続する環境を受けて業績が拡大したことによるものです。このほか、海外派遣領域の売上収益に対する為替影響額がプラスに寄与しました。

当第1四半期におけるセグメント利益（セグメントEBITDA）は240億円（前年同期比16.7%増）となりました。これは主に、国内派遣領域の売上収益の増加によるものです。また、メディア&ソリューション事業と同様に、当年度より当報告セグメントの国内派遣領域においても、連結グループ内取引に関する費用の配賦方針に変更がありました。この影響を控除した際のセグメント利益は前年同期比13.4%増、国内派遣領域のセグメント利益は前年同期比12.2%増（注）となりました。

（注）影響額は管理会計上の数値を用いて算出

当報告セグメントの業績及び関連データ等は以下のとおりです。

					(単位：十億円)
	前第1四半期	当第1四半期	増減	増減率 (%)	
売上収益（合計）	318.0	329.1	11.0	3.5	
国内派遣領域	125.7	135.6	9.8	7.9	
海外派遣領域	192.3	193.4	1.1	0.6	
セグメント利益（セグメントEBITDA）（合計）	20.6	24.0	3.4	16.7	
国内派遣領域	11.3	13.4	2.0	18.1	
海外派遣領域	9.2	10.5	1.3	15.0	

					(単位：人)				
					2018年 3月期	2019年 3月期			
					1Q末	2Q末	3Q末	4Q末	1Q末
市場環境指標									
派遣社員実稼働者数（平均）（注）	343,260	343,857	350,734	348,865	-				

（注）出所：一般社団法人 日本人材派遣協会

なお、2019年3月期1Q末については本書作成時点において未公表であるため、記載を省略しています。

(各領域別の概況)

・国内派遣領域

国内市場においては、引き続き派遣社員実稼働者数が高水準で推移し、企業による派遣社員の需要は高い状況が続いています。このような環境の下、新規登録スタッフの増員、新規派遣契約の獲得及び既存派遣契約の継続に注力しました。

この結果、当第1四半期における売上収益は1,356億円（前年同期比7.9%増）となりました。

・海外派遣領域

当第1四半期における売上収益は1,934億円（前年同期比0.6%増）となりました。なお、売上収益に対する為替影響額は46億円のプラス寄与となり、この影響を控除した売上収益は1.8%の減収となりました。これは主に、ユニット経営に基づき収益性を重視した事業運営に取り組んだこと等によるものです。なお、IFRS第15号の適用に伴い、一部の顧客への売上収益の表示について総額表示から純額表示に変更したことにより、売上収益は37億円押し下げられました。

iii 資本の財源及び資金の流動性

(財務方針)

当社グループは、借入による資金調達を有効に活用しつつ、国内格付機関による格付を意識した財務の健全性を維持することを財務方針としています。更に、資本効率の目安として、投資案件については厳格な基準を設けるとともに、ROEで15%の水準を目安に設定しています。

(資金使途)

運転資金、法人税の支払い、各事業セグメントにおけるM&A及び資産取得等による外部資源の獲得や設備投資、借入の返済及び利息の支払い、配当金の支払い等に資金を充当しています。なお、2018年6月21日において、1,430億円を対価として米国未上場企業 Glassdoor, Inc.の発行済全株式を取得しています。

(資金調達)

当社グループの運転資金及び投資資金については、まず営業活動によるキャッシュ・フローで獲得した資金を充当することを基本としていますが、資金需要及び金利動向等の調達環境並びに既存の有利子負債の返済及び償還時期等を考慮の上、調達規模及び調達手段を適宜判断して外部資金調達を実施する場合があります。外部資金調達について、原則として短期の運転資金については、金融機関からの借入、コマーシャル・ペーパー又はその組み合わせ、中長期の運転資金については、金融機関からの借入、社債又はその組み合わせにより調達することとしています。なお、当社は、機動的な資金調達を可能とするため、2,000億円（当第1四半期における未使用枠1,500億円）を上限とする社債の発行登録を行っています。

また、当社グループは、流動性を確保し、運転資金の効率的な調達を行うため金融機関4社と当座貸越契約を締結しています。なお、当第1四半期における当座貸越極度額の合計は1,130億円であり、当該契約に基づく借入実行残高はありません。

(格付)

当社グループは、格付機関である(株)格付投資情報センター（以下、「R&I」という。）、ムーディーズ・ジャパン(株)（以下、「ムーディーズ」という。）及びS&Pグローバル・レーティング・ジャパン(株)（以下、「S&P」という。）から長期格付を取得しています。当第1四半期における格付の状況は、以下のとおりです。

- ・R&I : AA-
- ・ムーディーズ : A3
- ・S&P : A-

(キャッシュマネジメント)

当社グループ全体の資金効率を最大化するため、法制度上許容され、かつ経済合理性が認められることを前提として、主にキャッシュマネジメントシステムを通じたグループファイナンスにより、当社グループ内での資金貸借の実施を外部借入よりも優先しています。

(資金運用)

当社グループの資金運用は、投機目的で行わず、元本が保証され、安全かつ確実に効率の高い金融商品のみで行うこととしています。

(連結財政状態の概況)

(単位：十億円)

	前年度 (2018年3月31日)	当第1四半期 (2018年6月30日)	増減
資産合計	1,574.0	1,588.1	14.0
流動資産合計	770.9	655.9	△114.9
非流動資産合計	803.0	932.1	129.0
負債合計	733.3	708.6	△24.7
流動負債合計	447.7	422.8	△24.9
非流動負債合計	285.6	285.8	0.1
資本合計	840.6	879.4	38.8
親会社の所有者に帰属する持分合計	835.6	874.1	38.4
非支配持分	5.0	5.3	0.3

① 資産

流動資産は前年度末比1,149億円（14.9%）減少しました。これは主に、現金及び現金同等物が1,115億円減少したことによるものです。非流動資産は前年度末比1,290億円（16.1%）増加しました。これは主に、子会社の新規取得等によりのれんが1,332億円増加したことによるものです。

② 負債

流動負債は前年度末比249億円（5.6%）減少しました。これは主に、営業債務及びその他の債務が190億円減少したことによるものです。非流動負債は前年度末比1億円（0.1%）増加しました。これは主に、繰延税金負債が49億円減少した一方、その他の非流動負債が51億円増加したことによるものです。

③ 資本

資本は前年度末比388億円（4.6%）増加しました。これは主に、親会社の所有者に帰属する四半期利益を計上したこと等により、利益剰余金が339億円増加したことによるものです。

(連結キャッシュ・フローの概況)

(単位：十億円)

	前第1四半期	当第1四半期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	25.8	48.0	22.2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22.6	△144.3	△121.7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△40.1	△20.9	19.2
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2.4	5.7	8.2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△39.4	△111.5	△72.0
現金及び現金同等物の期首残高	355.1	389.8	34.6
現金及び現金同等物の四半期末残高	315.7	278.3	△37.4

当第1四半期の現金及び現金同等物の残高は、投資活動及び財務活動による支出が営業活動による収入を上回ったため、前年度比1,115億円減少し、2,783億円となりました。

なお、当第1四半期における各キャッシュ・フローの主な増減事由については、以下のとおりです。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

税引前四半期利益677億円から、加算項目の主なものとして、減価償却費及び償却費168億円、減算項目の主なものとして、法人所得税の支払額225億円を計上したことによるものです。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

主に、子会社の取得による支出1,268億円を計上したことによるものです。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

主に、配当金の支払額198億円を計上したことによるものです。

(2) 連結業績予想に関する定性的情報

2019年3月期の連結業績予想につきましては、2018年5月15日に公表した内容から変更はありません。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	前年度 (2018年3月31日)	当第1四半期 (2018年6月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	389,822	278,314
営業債権及びその他の債権	323,116	312,682
その他の金融資産	19,864	19,957
その他の流動資産	38,159	45,031
流動資産合計	770,962	655,986
非流動資産		
有形固定資産	57,211	62,455
のれん	312,944	446,177
無形資産	229,232	228,117
持分法で会計処理されている投資	43,950	41,291
その他の金融資産	118,038	128,338
繰延税金資産	35,590	19,019
その他の非流動資産	6,102	6,741
非流動資産合計	803,070	932,141
資産合計	1,574,032	1,588,127

(単位：百万円)

	前年度 (2018年3月31日)	当第1四半期 (2018年6月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	204,172	185,117
社債及び借入金	24,068	24,661
その他の金融負債	1,356	1,332
未払法人所得税	20,991	13,169
引当金	7,034	3,571
その他の流動負債	190,145	194,997
流動負債合計	447,768	422,851
非流動負債		
社債及び借入金	159,007	161,608
その他の金融負債	4,860	1,705
引当金	5,043	5,574
退職給付に係る負債	45,781	45,774
繰延税金負債	53,172	48,207
その他の非流動負債	17,738	22,931
非流動負債合計	285,603	285,803
負債合計	733,372	708,654
資本		
親会社の所有者に帰属する持分		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	50,115	49,978
利益剰余金	811,287	845,204
自己株式	△32,049	△32,415
その他の資本の構成要素	△3,748	1,336
親会社の所有者に帰属する持分合計	835,605	874,104
非支配持分	5,055	5,368
資本合計	840,660	879,473
負債及び資本合計	1,574,032	1,588,127

(2) 【要約四半期連結損益計算書】

【第1四半期】

(単位：百万円)

	前第1四半期 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
売上収益	524,396	567,277
売上原価	282,760	290,295
売上総利益	241,635	276,982
販売費及び一般管理費	184,283	215,088
その他の営業収益	351	7,042
その他の営業費用	1,377	1,096
営業利益	56,326	67,839
持分法による投資損益 (△は損失)	1,202	△2,010
金融収益	1,850	2,095
金融費用	264	192
税引前四半期利益	59,115	67,731
法人所得税費用	18,655	20,139
四半期利益	40,460	47,592
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	40,219	47,363
非支配持分	240	228
四半期利益	40,460	47,592
親会社の所有者に帰属する 1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (円)	24.08	28.35
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	24.03	28.29

(3)【要約四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期】

(単位：百万円)

	前第1四半期 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
四半期利益	40,460	47,592
その他の包括利益		
純損益に振替えられない項目：		
その他の包括利益を通じて測定する 金融資産の公正価値の純変動	△1,626	5,260
確定給付型退職給付制度の再測定額	—	—
持分法によるその他の包括利益に 対する持分相当額	△5	△19
小計	△1,631	5,240
純損益にその後振替えられる 可能性のある項目：		
在外営業活動体の換算差額	10,200	4,300
キャッシュ・フロー・ヘッジの 公正価値の変動額の有効部分	536	413
小計	10,737	4,714
税引後その他の包括利益	9,105	9,955
四半期包括利益	49,565	57,547
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	49,324	57,197
非支配持分	241	350
四半期包括利益	49,565	57,547

(4)【要約四半期連結持分変動計算書】

前第1四半期(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分						
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素		
					株式報酬	在外営業活動体の換算差額	キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変動額の有効部分
2017年4月1日残高	10,000	52,529	714,055	△31,640	3,221	△11,383	792
四半期利益			40,219				
その他の包括利益						10,199	536
四半期包括利益	-	-	40,219	-	-	10,199	536
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替			△1,631				
自己株式の取得				△1,062			
自己株式の処分		△75		351	△275		
配当金			△36,195				
株式報酬取引					1,026		
非支配株主との資本取引		△2,222					
その他の増減		△17	634				
所有者との取引額等合計	-	△2,315	△37,193	△711	750	-	-
2017年6月30日残高	10,000	50,214	717,082	△32,351	3,971	△1,183	1,329

	親会社の所有者に帰属する持分				非支配持分	資本合計
	その他の資本の構成要素			合計		
	その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動	確定給付型退職給付制度の再測定額	合計			
2017年4月1日残高	-	-	△7,369	737,575	5,190	742,765
四半期利益			-	40,219	240	40,460
その他の包括利益	△1,631		9,105	9,105	0	9,105
四半期包括利益	△1,631	-	9,105	49,324	241	49,565
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	1,631		1,631	-		-
自己株式の取得			-	△1,062		△1,062
自己株式の処分			△275	0		0
配当金			-	△36,195		△36,195
株式報酬取引			1,026	1,026		1,026
非支配株主との資本取引			-	△2,222	△649	△2,872
その他の増減			-	617	△12	604
所有者との取引額等合計	1,631	-	2,382	△37,837	△661	△38,499
2017年6月30日残高	-	-	4,117	749,062	4,769	753,832

当第1四半期(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

(単位:百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分						
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素		
					株式報酬	在外営業活動体の換算差額	キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の変動額の有効部分
2018年4月1日残高	10,000	50,115	811,287	△32,049	3,723	△8,354	881
会計方針の変更による累積的影響額			1,360				
会計方針の変更を反映した2018年4月1日残高	10,000	50,115	812,647	△32,049	3,723	△8,354	881
四半期利益			47,363				
その他の包括利益						4,179	413
四半期包括利益	-	-	47,363	-	-	4,179	413
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替			5,240				
自己株式の取得				△1,078			
自己株式の処分		△153		711	△557		
配当金			△20,046				
株式報酬取引					1,049		
非支配株主との資本取引							
その他の増減		16					
所有者との取引額等合計	-	△137	△14,806	△366	491	-	-
2018年6月30日残高	10,000	49,978	845,204	△32,415	4,215	△4,174	1,295

	親会社の所有者に帰属する持分				非支配持分	資本合計
	その他の資本の構成要素			合計		
	その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動	確定給付型退職給付制度の再測定額	合計			
2018年4月1日残高	-	-	△3,748	835,605	5,055	840,660
会計方針の変更による累積的影響額				1,360		1,360
会計方針の変更を反映した2018年4月1日残高	-	-	△3,748	836,965	5,055	842,020
四半期利益			-	47,363	228	47,592
その他の包括利益	5,240		9,834	9,834	121	9,955
四半期包括利益	5,240	-	9,834	57,197	350	57,547
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	△5,240		△5,240	-		-
自己株式の取得			-	△1,078		△1,078
自己株式の処分			△557	0		0
配当金			-	△20,046		△20,046
株式報酬取引			1,049	1,049		1,049
非支配株主との資本取引			-	-		-
その他の増減			-	16	△36	△19
所有者との取引額等合計	△5,240	-	△4,748	△20,058	△36	△20,094
2018年6月30日残高	-	-	1,336	874,104	5,368	879,473

(5)【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	59,115	67,731
減価償却費及び償却費	14,530	16,833
子会社株式売却益	-	△6,337
営業債権及びその他の債権の増減	14,746	14,639
営業債務及びその他の債務の増減	△14,651	△18,508
その他の増減	△13,178	△5,420
小計	60,562	68,938
利息及び配当金の受取額	694	1,656
利息の支払額	△3	△39
法人所得税の支払額	△35,424	△22,525
営業活動によるキャッシュ・フロー	25,829	48,030
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,848	△6,718
無形資産の取得による支出	△11,079	△14,102
子会社の取得による支出	△3,478	△126,899
子会社の売却による収入	-	6,992
その他	△3,222	△3,667
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,628	△144,395
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△1,062	△1,078
配当金の支払額	△35,605	△19,857
その他	△3,521	17
財務活動によるキャッシュ・フロー	△40,188	△20,917
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,447	5,775
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△39,435	△111,507
現金及び現金同等物の期首残高	355,196	389,822
現金及び現金同等物の四半期末残高	315,761	278,314

(6) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(7) 要約四半期連結財務諸表注記

1. 会計方針の変更

当社グループは、当第1四半期よりIFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」(2014年5月公表)及び「IFRS第15号の明確化」(2016年4月公表)(あわせて以下、「IFRS第15号」という。)を適用しています。

IFRS第15号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しています。

当社グループでは、以下の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しています。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：取引価格を契約における履行義務に配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時点で(又は充足するにつれて)収益を認識する。

契約獲得のための増分コストのうち、回収可能と見込まれる部分について資産(以下、「契約獲得コストから認識した資産」という。)を認識しています。

契約獲得のための増分コストとは、顧客との契約を獲得するために発生したコストで、当該契約を獲得しなければ発生しなかったであろうものです。

契約獲得コストから認識した資産については、当該資産の償却期間が1年以内である場合を除き、当該資産に関連するサービスの顧客への移転に合わせて定期的に償却しています。当該資産の償却期間が1年以内である場合は、IFRS第15号で規定される実務上の便法を適用し、契約獲得のための増分コストを発生時に費用処理しています。

そのため、従前の会計基準では発生時に費用処理していた販売手数料等を一部資産として計上しています。

結果として、従前の会計基準を適用した場合と比較すると、当第1四半期の期首時点において、主にその他の流動資産が1,764百万円、利益剰余金が1,360百万円それぞれ増加し、繰延税金資産が540百万円減少しています。

また、顧客へのサービスの提供に他の当事者が関与している取引について、サービスの履行義務を充足する前に当社グループがサービスを支配しているか検討を行った結果、当社グループはサービスを支配していないと評価しました。そのため一部の顧客への売上収益の表示について総額表示から純額表示に変更しています。

結果として、従前の会計基準を適用した場合と比較すると、当第1四半期の要約四半期連結損益計算書において、売上収益及び売上原価が3,785百万円それぞれ減少しています。

2. 企業結合等

前第1四半期（自 2017年4月1日 至 2017年6月30日）

前第1四半期に生じた重要な企業結合等はありません。

当第1四半期（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）

(1) Glassdoor, Inc.の株式取得について

① 被取得企業の名称及び説明

被取得企業の名称：Glassdoor, Inc.（以下、「Glassdoor」という。）

被取得企業の事業の内容：オンライン求人情報サイト運営

② 取得日

2018年6月21日

③ 取得した議決権付資本持分の割合

100%

④ 企業結合の主な理由

当社は中期的に、米国及びグローバル市場においてIndeedの既存事業の拡大とM&Aを通じてHRテクノロジー事業を積極的に拡大する戦略を掲げています。この成長戦略に沿って、企業レビュー情報等の膨大なデータベースを公開し求人企業の透明性を高めてきたGlassdoorとオンライン求人情報専門検索サイトとして高い知名度を有するIndeedが協働することで、求職者と求人企業が各々直面している様々な問題を解決し、更なる成長を実現する事業機会を創出したいと考えています。当社は、オンライン求人検索、オンライン求人情報アプリケーション、求職者と求人企業のマッチング、そして求職者による求人企業の口コミ情報によって、求職者の仕事探しと企業の求人活動を更に強かにサポートし、オンラインHR領域におけるポジションを確固たるものにしていきます。

⑤ 被取得企業の支配を獲得した方法

現金を対価とする株式取得

⑥ 認識したのれんの構成要因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものです。

⑦ 取得対価及びその内訳

（単位：百万円）

対価	金額
現金及び現金同等物	143,097
合計	143,097

（注）取得対価は1,295百万米ドルを取得日の直物為替レートで換算した金額であり、Glassdoorの保有純現金の調整等を含んでいます。

⑧ 取得日における資産・負債の公正価値及びのれん

(単位：百万円)

科目	金額
流動資産(注1)	21,217
非流動資産	1,968
資産合計	23,186
流動負債(注2)	11,442
非流動負債	1,002
負債合計	12,444
純資産	10,741
のれん(注3)	132,355
合計	143,097

取得した資産及び引き受けた負債は、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額です。

(注1) 現金及び現金同等物16,197百万円が含まれています。また、取得した営業債権の公正価値は3,469百万円です。

(注2) 繰延収益9,167百万円が含まれています。

(注3) のれんの金額は、取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額です。

⑨ 要約四半期連結損益計算書に認識されている取得日以降の被取得企業の売上収益及び四半期利益

取得日以降における被取得企業の売上収益及び四半期利益は重要性がないため、記載を省略しています。

⑩ 取得日が当年度の期首であったと仮定した場合の2018年6月30日に終了した当第1四半期における売上収益及び四半期利益

企業結合が期首に行われたと仮定した場合の当社グループの売上収益及び四半期利益に与える影響は軽微なため、記載を省略しています。

⑪ 取得関連費用

当該企業結合に係る取得関連費用は1,193百万円であり、要約四半期連結損益計算書の「販売費及び一般管理費」に計上していません。

3. 事業セグメント

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているセグメントです。

当社グループは、事業の種類別に「HRテクノロジー事業」、「メディア&ソリューション事業」及び「人材派遣事業」の3つを報告セグメントとしています。

HRテクノロジー事業は、オンライン求人情報専門検索サイト「Indeed」と、これに関連する事業で構成されています。

メディア&ソリューション事業は、販促領域及び人材領域の2つの事業領域で構成されています。

人材派遣事業は、国内派遣及び海外派遣の2つの事業領域で構成されています。

(2) 報告セグメントに関する情報

報告セグメントの利益はEBITDA（営業利益＋減価償却費及び償却費±その他の営業収益・費用）です。全社／消去のセグメント利益には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれています。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費です。セグメント間の内部売上収益又は振替高は市場実勢価格に基づいています。なお、セグメント資産は、算定していないため、記載を省略しています。

前第1四半期（自 2017年4月1日 至 2017年6月30日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				全社／消去	連結
	HRテクノロジー	メディア&ソリューション	人材派遣	合計		
売上収益						
外部顧客からの売上収益	45,367	164,248	314,780	524,396	—	524,396
セグメント間の内部売上収益又は振替高	1,121	953	3,283	5,358	△5,358	—
合計	46,488	165,202	318,063	529,754	△5,358	524,396
セグメント利益又はセグメント損失（△）	7,768	43,169	20,602	71,540	341	71,881
減価償却費及び償却費						14,530
その他の営業収益						351
その他の営業費用						1,377
営業利益						56,326
持分法による投資損益（△は損失）						1,202
金融収益						1,850
金融費用						264
税引前四半期利益						59,115

当第1四半期(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				全社/消去	連結
	HRテクノロジー	メディア&ソリューション	人材派遣	合計		
売上収益						
外部顧客からの売上収益	69,745	171,988	325,543	567,277	-	567,277
セグメント間の内部売上収益又は振替高	1,361	1,555	3,566	6,483	△6,483	-
合計	71,107	173,543	329,110	573,760	△6,483	567,277
セグメント利益又はセグメント損失(△)	9,447	47,386	24,038	80,872	△2,145	78,727
減価償却費及び償却費						16,833
その他の営業収益						7,042
その他の営業費用						1,096
営業利益						67,839
持分法による投資損益(△は損失)						△2,010
金融収益						2,095
金融費用						192
税引前四半期利益						67,731